

メッセージ: 鳴戸氏のメンタークラブ設立の思い

～NPO 産業技術活用センター (ITEC) ～

早稲田大学ビジネススクール(WBS)

(大学院商学研究科ビジネス専攻)

教授・商学博士 松田修一

(日本ベンチャー学会会長)

NPO 産業技術活用センター (ITEC) 主催の第4回メンターフォーラム「大学発等ベンチャー・中小企業のためのメンタークラブの設立に向けて」が、2009年2月10日(火曜日)にキャンパス・イノベーションセンター(田町)で開催されました。

<メンタークラブ立上げの意義>

2008年9月の米国投資会社リーマンブラザーズの倒産以降、世界の100年に一度の金融危機による信用収縮と消費収縮が一気に進みました。政府では「日本への影響はそれほどでもない」という的外れの発言がありましたが、20年間日本を牽引したグローバル成功企業であった自動車や電機・電気業界は、現在構造改革に迫られています。08年3月期で史上最高の経営業績であった決算が、09年3月期には赤字に転落してしまったからです。これらの業界の裾野は広く、水平分業としてWin-Win事業を立ち上げた技術系ベンチャーは、準備も覚悟もなきまま、いきなり世界の荒波に投げ出されました。このような経済状況であるからこそ、日本の電機業界等で世界の荒波と戦ってきた先人が中心になって「メンター」を組織し、これから巣立つ起業家たちを支援して行く意義は大なるものがあります。

<メンターの意義>

メンターの語源は、ギリシャ神話の英雄オデッセウス (Odysseus) の息子テレマコス (Telemachus) の忠実な助言者であったメンートル (Mentor) から来ています。そこで、メンターは「事業の円滑な成長支援を行う者、すなわちベンチャーの創業に必要な業務・考え方・意思決定・行動に対して、先輩として助言や指導をし、起業家の能力を引出すことを生業としている者」と定義することができます。

メンターの語源から、ベンチャー支援に限ったことではなく、企業の社内ベンチャーや同一職場・職業内、さらに人生のキャリア形成過程で広く、先輩として助言や指導をし、後輩の能力を引出すことを行っている者を総称して使用されています。職場の上司や学校の教員等は、すべからずメンター機能を持っているといえます。

<メンターフォーラム・プログラム>

メンターフォーラムのプログラムは、次のようなものでした。

開会の挨拶	NPO 産業技術活用センター	理事長	鳴戸道郎氏
来賓の挨拶	(社) 日本経済連合会	常務理事	椋田哲史氏
第一部	『ベンチャー・中小企業と日本経済のゆくえ』		
	特別講演「日本型メンターの定着を目指して」	早稲田大学	松田修一氏
第二部	『メンター活動報告』		
	報告1：私のメンター体験	ITEC メンター（元日本 IBM 専務）	栗生晴夫氏
	報告2：私のメンティー体験	(株)IT DeSign 社長	板橋晃司氏
第三部	『ITEC メンター活動と将来像』		
	報告3：ITEC のメンター活動の総括と将来像	ITEC 事務局長	野尻昭夫氏
	パネルディスカッション『ITEC メンタークラブに期待するもの』		
	コーディネーター	ネクステック(株) 取締役顧問	ファウンダー 山田太郎氏
	パネリスト	関東経済産業局 新規事業課長	鈴木通正氏
		メンター三田会 会長代行	森 靖孝氏
		NPO ものづくり品川宿 事務局長	里見泰啓氏
		一般社団法人 日本エンジェルズ・フォーラム代表理事	井浦幸雄氏

フォーラムは、1時から5時まで続き、熱心な議論が交わされましたが、ITEC 理事長の鳴戸道郎氏と事務局長野尻昭夫氏の話の概要を記述します。

< ITEC 理事長 鳴戸道郎氏挨拶から >

鳴戸氏は、伊集院丈というペンネームで、07年「雲を掴め～富士通・IBM 秘密交渉」、08年「雲の果てに～秘録富士通・IBM 訴訟（日本経済新聞出版会）」を出版されました。1980年当時、IBMと富士通のソフト特許戦争の実録ドラマで、担当部長伊集院として登場します。この出版の意図は、日本のIT産業育成のための熱い思いを後輩に伝えたい一心でした。

日本の次世代を担う産業を育てたいと、富士通副会長当時から、日本経団連では『起業創造委員会』の中心で活躍され、ITECでは理事長として、メンタークラブを立ち上げ、草の根の地道な活動に日が当たるように腐心してきました。その鳴戸氏からの開口一番は「病院で外出許可を得て、死の床から参加しました」でした。07年手術、08年11月転移していることがわかり、医療の進化で諦めないで行こうと、医者から言われていると。

挨拶の締めくくりは、「メンターの仕事を成功させたい！中小企業を潰したくない！」ということでした。昨年の11～12月には、早稲田大学発の技術を事業化するために、鳴戸氏のアドバイスを仰ぎと連絡をとったが、2回にわたり都合がつかなかった時です。いつもの日本の将来に対する熱い思いの鳴戸さんをイメージしていたときに、このような事態が発生していたとは知りませんでした。人生をベンチャー支援に燃焼している凄さを思い知らされました。松田の講演中に退席されましたが、また元気な姿をぜひ我々の前へとお送りしました。

<元 IBM 専務の栗生晴夫氏からのメンター経験ポイント>

- ・ 無償のメンターとメンティーは信頼関係が構築できなければ相談に乗るのは難しい。
- ・ メンティーの事業をある程度理解する土壌が必要である。
- ・ 無償なので安易に流れないように、双方それなりの我慢、努力が必要である。
- ・ メンティーの時間は有限で即効性を求めるが、事業の継続性こそ肝心と理解する。
- ・ 双方のコミュニケーションのために、パソコンは不可欠である。
- ・ メンターとして大企業の経営幹部の強みは何で、価値は何かを考える。
- ・ メンターとメンティーのマッチングの場の工夫が必要である。

<ITEC 事務局長野尻昭夫氏の総括から>

ITEC の目指す「メンター」には、次のような行動規定と禁止行為があります。

○会員の行動規定

- ① メンティーの求めに応じて、面談によって、自己の知識・経験と信念に基づき、助言を行う。ただし、自己の知識・経験を越えると判断する場合には、他の会員を紹介するか、もしくは助言を断ることができる。
- ② 本会の憲章・細則に従い、その規定を遵守するものとする。
- ③ 自ら積極的に研鑽を積む。
- ④ メンターと本会の地位向上に努める。

○メンターの禁止行為

- ① 自己の知識・経験から判断できないことを敢えて行い、助言すること。
- ② 助言の範囲を逸脱すること。
- ③ 金銭、株、ストックオプション等の報酬を受けること。
- ④ 将来の役職や報酬等を受ける約束をすること。

<松田の講演から>

松田は、①ベンチャー環境の現状、②ベンチャーの資金支援、③日本のイノベーション元年、④プロエンジェルの時代、⑤プロメンターの時代、⑥メンターの能力と役割について話しました。特に、「メンターの役割と能力」として、次のように話しました。

メンターの役割	メンターの能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業家能力の引出し（聞き上手） ・ 大局観（鳥の眼、全体像の把握） ・ 創業時のガバナンス（攻めと守りの支援） ・ リスク発見（異なる前提条件を意識） ・ Warm Heart&Cool Head のバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の体験強化 ・ 自己の限界認識 ・ 事業成長と役割変化 ・ リスクテイク能力（逃げない精神） ・ 起業家の成長を楽しむ心

一人のメンターで、ベンチャー支援は不可能ですので、多様な能力のメンターネットワークやエンジェル、キャピタルを含む他の支援者とのネットワーク構築が重要である。さらに、『自己のビジネス体験を活かし、90歳の人生を楽しもう！！』『金融危機を乗り越え、2050年の次の世代に、住みたい日本を引き継ごう』と締めくくりました。 おわり